

国際社会学部

登利谷 正人

Toriya Masato

地域社会研究コース／南アジア

歴史学・地域研究



世界最大のムスリム（イスラーム教徒）人口を抱える南アジアを軸に

専門はアフガニスタン・パキスタンを中心とした南アジアの地域研究・近現代史です。アフガニスタンとパキスタン両国に加え、インド、バングラデシュなどを含めた南アジアのムスリム人口総数は現段階で6億人近くに達し、南アジアは世界最大のムスリム集住地域となっています。数十年後には世界で最も多くの人々により信仰される宗教がイスラームとなることが予測されており、将来の国際社会について理解を深める上で、南アジアのムスリムを取り巻くあらゆる事象や、南アジアのイスラームに関する知見は必須のものとなっていると言えます。特にアフガニスタン・パキスタン両国は、南アジア・中東・中央アジアとの結節点にあたり、政治・経済・社会から言語・文化に至るまで、周辺地域の影響を受けつつ常に変化を続けるダイナミズムが魅力の地域です。

研究紹介

研究対象はアフガニスタン・パキスタンを中心とした南アジアのイスラーム社会で、歴史的動態を踏まえつつ現代に至るまでの政治・外交・文芸など幅広く研究しています。特に研究の中心は、18世紀から現代に至るアフガニスタン、およびパキスタン（ムガル帝国期と英領インド期を含む）を中心とした政治史で、時代ごとの地域・国際情勢との関係を踏まえて研究しています。現在はアフガニスタンやパキスタンに分布するエスニシティ集団であるパシュトゥーンを中心とした政治運動を文芸やイスラーム、慣習法といった観点や、山岳地帯を取り巻く峠という観点を軸に研究しています。



「タリバンとは何か—アフガニスタン政治文化の中で考える—」
『外交』69号、34～39頁

2021年8月15日にアフガニスタンにおいて
実質的復権を果たしたターリバーン暫定政権
その組織の構造と歴史的背景を概説



担当授業

- ウルドゥー語
- パシュト語
- パキスタン研究入門
- アフガニスタン・パキスタン（2）研究入門
- アフガニスタン・パキスタン近現代政治社会史
- 歴史学入門
- 南アジア・イスラーム地域研究

関連する分野

- 歴史学（中東・中央アジア）
- 政治学・イスラーム学
- 国際関係論・文学

出版物

アフガニスタン地域研究

- 『アフガニスタンを知るための70章』
- 『近代アフガニスタンの国家形成：歴史叙述と第二次アフガン戦争前後の政治動向』

パキスタン地域研究

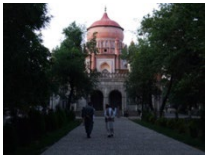
- 『日本の国際協力 アジア編—経済成長から「持続可能な社会」の実現へ—』
- 『新世界の社会福祉 第9巻 南アジア』
- 『ロヒンギャ問題とは何か—難民になれない難民—』

パシュトゥーンの文化・文芸

- 『言語別南アジア文学ガイドブック』
- 『中東・イスラーム世界の歴史・宗教・政治：多様なアプローチが織りなす地域研究の現在』

国際社会学部

南アジア・イスラーム地域研究ゼミ



「セーティー・ハウス」
(パキスタン・ベシャーワル)

どのようなゼミか

本ゼミは、アフガニスタン・パキスタンを中心に、西は中東のイランから東はインド・バングラデシュにまで広がる、南アジアと関わりの深いイスラム社会に関する様々な事象に関心のある方を対象としたゼミになります。したがって、アフガニスタンやパキスタンにおける現代の政治・経済・社会に関連する事項から、イスラムの活動を中心としたムガル帝国～英領インド期やアフガニスタンの歴史、インドにおけるイスラム社会、あるいは日本や世界に広がる南アジアのイスラム系移民に関する問題など、扱う対象は様々です。

アフガニスタン・パキスタンを中心とする地域は、危険なイメージが常に付きまとい、負の側面が強調される傾向が見られます。しかし、それはこの地域の一側面でしかありません。それらの戦争や内戦、テロリズムなどの背景にある、この地域の豊かな社会や文化、あるいは活発な政治活動や経済、エスニシティ間や異なる宗教・宗派間での共存と対立、アフガニスタンやロヒンギャ難民問題などから、一般の人々の生活に根ざした諸問題など、この地域を取り巻く問題は多岐にわたります。

さらに、アフガニスタンでの戦争と難民、ターリバーンの問題、イラン・インド・中国・湾岸諸国などの近隣国との関係や、米中露などの関与から、日本の南アジア移民なども研究対象となりえます。

ゼミではイスラム社会の基層をなす思考と歴史的背景、さらには南アジア地域の多様な側面についての双方への理解を深めつつ、普段触れる機会の少ない南アジアのイスラム社会を軸として、世界の多様性についての理解を深めていってほしいと考えています。

卒論

- 20世紀前半における英領インドにおけるインド国民会議派とパシュトゥーンの政治活動
- インド・ユダヤ人のイスラエルへの「帰還」とインドへの再還流（仮題）
- 南アジアの女性たちの母親としての諸問題（仮題）
- カシミール問題におけるインド・パキスタン間関係（仮題）
- アフリカにおける南アジアの影響：PKO活動を中心に（仮題）

おススメの本

- 黒崎卓・子島進・山根聡編『現代パキスタン分析』
- 高橋博史『破綻の戦略：私のアフガニスタン現代史』
- 前田耕作・山内和也編著『アフガニスタンを知るための70章』
- 粟屋利江・太田信宏・水野善文編『言語別南アジア文学ガイドブック』
- 堀井聡江『イスラーム法通史』

（地域社会研究コース 登利谷正人ゼミ）

南アジアは経済発展を続け、急速に市場が拡大しているブルーオーシャンです。登利谷ゼミで南アジアについて深く学び、日本と南アジアを繋ぐ国際人材を目指しませんか？私たちのゼミでは、主にパキスタンやアフガニスタン、インドを中心に、歴史、経済、文化など、様々なトピックを学生自身が選択しながら学びを深めることができます。日々のゼミ活動では、南アジアに関係のある論文や書籍を輪読し、先生の解説を参考にしながら議論を深めています。また、定期的に、ゼミ生自身が自由に選択したトピックについて相互発表会を実施しています。基本的に少人数のゼミで、先生と生徒の距離が近いことも特徴です！そのためゼミでの学びや卒業論文の方向性のみならず、私生活や履修に関する相談も気軽にできる環境です！私たちのゼミに入って、南アジアを共に楽しく学びましょう！ゼミ生一同、新たな仲間をお待ちしております！！

（東佑太、古田花梨）